

トヨコ通信

2015年5月号

ホームページ...<http://www.sasada-toyoko.jp/>
E-メールsanbal@sasada-toyoko.jp

発行 : 日本共産党大垣市後援会
発行日 : 2015年5月1日 第156号
連絡先 : 大垣市室本町5-8
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部
内
資
料

<笹田区域>
興文中・西中・西部中(宇留生小を除く)
上石津全域



20年ぶり2議席 議案提案権獲得へ

4月26日投票日で行われました大垣市議会議員選挙において、日本共産党は笹田トヨ子1925票、中田としや1896票を獲得し、20年ぶりの2議席獲得となりました。

ご支持、ご支援頂きましたみなさま、本当にありがとうございました。

議案提案権を得ることができました。今後はよりいっそう、みなさまの声を議会に届けていくことができます。

公約実現に向け、二人でがんばります。今後ともよろしくお願い致します。

笹田トヨ子
中田としや



投票日夜23時50分、
当確が出て喜



投票日翌日。当選証書を手にして。



投票日翌々朝。駅南口でご挨拶

選挙戦を振り返って



笹田トヨ子

今回の選挙は乳母車で街中を歩いて辻説法を行ってきました。あちこちで私の話を聞いてくださり、手を振ってご声援をいただき、大変励まされました。

今回はどうしても「2議席」が欲しかったので、厳しい選挙でしたが実現し、大変嬉しいです。本当にありがとうございました。

これで大垣からも暴走する安倍政権に対し「NO」を突きつけることができ、また大垣市議会をもっと市民に開かれた場にしていくため、二人で全力をあげて頑張ります。



中田としや

雨の日、風の強い日、その後はずっと日差しが強い日。

「黒くなったね」とよく言われます。

天候もさることながら、非常に厳しい選挙戦でした。

街頭で手を振ってもらったり、声をかけてもらったり。本当に多くの方々に支えられ、励まされ、応援して頂きました。

街頭で訴えてきた主に2点、安倍政権の防波堤としての役割と、若者の意見を議会に届けること、この2点が評価された結果だと受け止めております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

読者の声

選挙を振り返って

はじめて選挙事務所に関わって

(20代 女性 中)

今回私は、中田としや事務局事務員として、参加しました。選挙は今回初めてで、何が何だかわかりませんでした。チーム中田として楽しく過ごすことができました。

中田さんとは子どもと関わるNPOの会員で、知り合った友人です。友人が選挙に出ると言う事でお手伝いをすると思いました。

彼の人柄のおかげでたくさんの方に事務所に集まってくれ、電話かけや事務所前での手振り、宣伝カーや自転車隊、事務所内の接客、炊き出しなどそれぞれが自分の出来る事を精一杯行う、そんな雰囲気になっていました。

また、頑張ってくれた中田さんを応援している方々の懸命な元気な姿を見て事務所内でも刺激され動いて下さった方もたくさん居たとおもいます。一人ひとりが一生懸命に頑張る姿も、明るい雰囲気の笑顔が絶えない事務所だったと思います。

この事務所を支えてくれた、スタッフの皆さん、足を運んで下さった皆さん本当にありがとうございました！事務局としての機能や雰囲気作りの大切さなど勉強させていただきました。貴重な経験ありがとうございました！

これからも、よろしくお願ひ致します。

歴史的瞬間に立ち会い一票の価値を知る

(30代 男性 保育)

「中田としや、累計1800票です。確認してください。」

と目の前に出された箱に並べられた票の束を見た瞬間、心の中で

「ヨッシャー！やったぞー！！」

という雄叫びをあげ、こみ上げる感情をなんとか抑えつつ丁寧に確認印を押した。

中田としや、笹田トヨ子両候補の当確が出た瞬間を、僕は開票所である大垣城ホールの中で迎えた。

「選挙立会人」という初めての経験のおかげで、20年ぶりの大垣市日本共産党市議2議席という歴史的瞬間を誰よりも早く知ることができたという自己満足だけではなく、僕たちの一票がどれだけ大切に扱われているかを知ることができた。例えば、一旦は字の不明瞭さで「無効票」になりかけていた一票が、6人の立会人と選挙人（という最終決定者）の意見や判断によって「有効票」に変わることもあるのだ。

どの一票にもドラマがあり、大切にされていることを実感した。

このような機会を得たのも中田としやのおかげ。

さあ、全力で支えねば。

読者の声

集団的自衛権の危機

平和は知恵を絞って守りぬくモノ

(30代 男性 二)

「集団的自衛権」という言葉の響きから一見、あたかも正当な権利のように考える人も中にはいるらしい・・・との噂もチラホラ聞くので、今まで世界でこの権利が行使された事例をあげてみると、ソ連による1956年のハンガリー動乱、1968年チェコスロバキア動乱、アメリカによる1964年のベトナム戦争、1981年コントラ戦争・・・

まあ結果的に大勢の人々が殺されたってコトです。今、安倍政権が押し進めているのも結局、アメリカの腰巾着になって世界で人を殺す権利を認めてほしいと言っているようなもの。

私は日頃、イチ父親として子どもたちには「人を大切にする人」に育てて欲しいと願います。

いかなる理由があろうとも世界に出て行って、人と殺し合う「権利の濫用」なんか認めません！

不安倍増政権の暴走を前に、やはり「平和」は当たり前のように天から降ってくるものじゃなく、人が知恵を絞って「守りぬくモノ」だと痛感するわけです。

私は、ただただ、子どもたちを守りたいだけです。

日本を守るための権利という錯覚



集団的自衛権というと、「自衛」という言葉から、何か自分（日本）を守るための権利であるかのような錯覚に陥りますが、実際は日本と仲の良い国（アメリカ）に対する武力攻撃を、日本が直接攻撃されていないにもかかわらず、武力をもって阻止するものであり、憲法9条を有している日本で認められるものではない、と思います。

また集団的自衛権は、アメリカや旧ソ連といった大国の軍事介入の口実になってきたという実態からも非常に危険なもので、日本がアメリカとともに海外の国へ侵略をする道が拓かれてしまうといえます。

アメリカや旧ソ連のような国になるのか、それとも戦後守ってきた憲法9条のもとで平和国家を目指していくのか、極端にいうとそういうことではないでしょうか。私は、息子に殺し殺されることを絶対にさせたくありません。